令和7年度 津山小学校 いじめ防止対策の重点

私たち教職員は、かけがえのない存在である子ども一人一人が、「いのち」を大切にし、心豊かにたくましく成長することができるように、家庭や地域と連携し、自他の「生命」の尊さと人間としての「生き方」をしっかりと教えていかなければならない。そのために、「津山小いじめ防止基本方針と対策」を推進し、いじめを絶対にしない、させない学校づくりを目指していく。

(1) 学級経営の充実

① 児童理解の推進

- 面談やアンケート、年2回のQ-U（学級集団アセスメント）などの実施により、学級集団などの状況を把握・点検しながらいじめを生む土壌になっていないか配慮し対応する。
- 特別支援教育の視点を活かした児童理解を進め、適切な人間関係の構築や集団づくりに活かしていく。

② 適切な指導・支援

- 一人一人の児童理解に基づいた適切な指導・支援を教育活動全体で行い、児童が安全で安心して過ごすことができる学級づくりに努める。
- 全職員で言葉・対話を大切に指導する。子どもの話をしっかり聴き、丁寧な言葉遣いで答える。
- けんか、ふざけ合い、好意で行った行為であっても、相手が苦痛と感じれば“いじめ”の認識をしっかりと持つ。また、生活の様々な場面で起きたことについて自分達で考えさせる。

(2) 児童への呼びかけの継続

- 学期初めに、校長及び担任はいじめは卑劣な行為であること、絶対に許さないことを伝える。
- 相談できる関係づくりを、年間を通して行う。
- 児童会でも「いじめをしない・させない」取り組みについて考えさせるようにする。

(3) 積極的ないじめの認知

- 目に見えるいじめはもちろんのこと、見えにくいいじめに気づく努力と工夫を行っていく。児童の人間関係に配慮するとともに、複数の教員の気づきを大切にし、より多くの目で把握し早期に対応できるように努める。そのために毎週水曜日の担外会、職員打合せで「子どもを語る会」を行い、配慮や目配りが必要な子どもについての情報交換を行う。

(4) 組織としての対応

○職員研修

「津山小いじめ防止の基本方針と対策」の確認・共通理解を行う。

講師を招聘し、年2回「学級経営改善研修会」を実施し、Q-Uアンケートの分析と活用を図る。

- 県のいじめアンケートの実施にあわせて、教師と児童との面談の時間(にこにこタイム)を持つ。
- 教職員の迅速な情報共有 (生徒指導主任および教頭との情報共有を大切にする)
- 記録をしっかりとる。確実な情報の共有と引き継ぎを行う。

(5) 家庭・地域との連携

- いじめに係る家庭用チェックリストの配付、本校独自の学校生活アンケートを月に1回行うなどして、家庭と連携しながら児童の状況把握に努める。
- 担任以外にも相談窓口があることを周知させ、児童・保護者が相談しやすい環境づくりに努める。